

目指す学校像	全ての生徒の可能性を引き出す「個別最適な学び」を推進し、希望と思いやりをはぐむ寄り添いを大切にした美と活力の学校
--------	--

重点目標	1 真の学力の育成を図る学習指導の充実 2 豊かな心と健やかな体を育む教育活動の充実と教育環境の整備 3 学校・家庭・地域社会と一体となった教育の推進 4 教職員の資質能力の向上と教職員組織の活性化
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度 評価							実施日令和5年2月28日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査の平均正答率は、本校の前の結果に比べ、全国の平均に少しずつ近づいてきている。 ○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果では、「教科の勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的な回答は、質問を受けた教科すべてにおいて、県や全国の平均を大きく上回っている。 ○全国学力・学習状況調査の平均無回答率は、本校の前の結果に比べ、全国平均より減少した。 ○授業態度も落ち着いており、与えられた課題に対して真面目によく取り組んでいる。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語は、評価の観点「言語についての知識・理解・技能」に課題がある。数学については、本校の前の結果に比べ改善しているが、評価の観点「数学的な見方や考え方」に課題がある。 ○教科の学習は好きな生徒が多いが、「教わる」から、「主体的に学ぶ」生徒の育成が課題となる。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか?」の項目において、肯定的に回答した生徒の割合が、県や全国の平均を下回っていることから、家庭学習の取組も課題となる	・学びの自律化に向けた情報端末等の活用、授業改善 ・生徒を大切に、生徒にとって楽しい授業 ・計画的な家庭学習	①全校三者面談や毎学期の二者面談において定期テストやタブレットを活用した教材の取組状況を基に振り返りを行い、目標をもち学習に向かう個別の学習計画を生徒と一緒につくる。 ②全国学力・学習状況調査について、生徒が自己採点をし、その結果を情報端末上のシートに入力することで、生徒が自らの学習状況を把握できるようにする。 ③全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、「言語についての知識・理解・技能」「数学的な見方や考え方」の状況を分析するとともに、市教委による学力向上カウセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを教科ごとに設定することができたか。また、小学校と連携した、取り組みや家庭学習へ向かう学びの向上を図ることができたか。	①全生徒に対して、個別の学習計画をもとに毎学期の二者面談で学習相談を行うことができたか。 ②生徒が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか ③調査結果の分析結果や学力向上カウセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを教科ごとに設定することができたか。また、小学校と連携した、取り組みや家庭学習へ向かう学びの向上を図ることができたか。	・学びの自律化に向けた情報端末等の活用、授業改善については、本校研究課題「すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」に取り組む中で、全教員は、「授業改革部」「学習支援部」「学習環境整備部」の三部会に所属し研究を深め、学習計画や学習相談等の充実を図ることができた。 ・市教委への要請訪問を実施し、授業実践や指導助言をもとに、情報端末を授業の一つの道具とし授業改善に努めた ・先進的な研究を進めている学校への視察や学力向上カウセリング研修、小・中合同研修会を通して、家庭学習の充実を図ってきた。	B	・本校の研究課題に取り組む中で、研究組織の三部会より挙げられた課題や調整箇所等をまとめることができた。学びの自律化に向け、更に充実を図っていく。 ・具体的には、本校や他校で取り組んだ実践事例や指導助言を受けた内容の一覧を作成し、教科を超えて、どの教員もすぐに取り入れられるものにしていく。 ・今年度生徒対象に実施した「自学・自習」や「授業外の学習の充実」についてのアンケート結果からは、当初に比べ向上しているが、更に充実を図るための改善に努めていく。	・今年度から、新たに取り入れたチャンスタイムは、生徒の個別の学習計画を進めていく取り組みとして大変素晴らしいものである。 ・保護者の学校評価アンケート「お子さんが学校の授業を理解していること、昨年度より大幅にアップしていることから、子どもの学習に対して保護者が肯定的なのは、先生方の日頃の研修や研究の成果だと感じました。 ・生徒個々の希望をかなえていくという意味で、一つの学科に特化して、生徒の自信を高めていく方法も考えていってほしいです。例えば、英語教育に力をいれていくなど。
2	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査生徒質問紙において、肯定的な回答が、全国、県平均を上回った項目は、●人が困っているときは、進んで助けていますか?●学校に行くのは楽しいと思えますか?●自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか?●友達と協力するのは楽しいと思えますか?●友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか?で、協力や優しさ等、大切なことが身に付いている。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査生徒質問紙において、肯定的な回答が、全国、県平均を下回った項目は、●自分には、よい所があると思えますか?●将来の夢や希望をもっていますか?の結果でした。将来、自信をもって進むために必要な自己肯定感を高めていく教育活動を展開していく。	・生徒一人ひとりへの寄り添った支援や教育相談体制の充実 ・自己肯定感を高める取組	①生徒向けアンケートは、情報端末も活用し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握し、学校全体把握できるようにする。 ①「人間関係プログラム」で学んだことを日常の場面で意図的に取り入れ、学級で発言しやすい環境を整え、発言や多様性を温かく受け入れる雰囲気をつくる。 ②「『命の支え合い』を学ぶ授業」を通して、相談しやすい環境をつくる。	①学校評価生徒アンケート「先生は相談に親身になって応じてくれる」肯定的な回答相談にのってくれる」95% ②学校評価保護者アンケート「教育相談項目」肯定的回答80%	・生徒一人ひとりへの寄り添った支援や教育相談体制の充実については、学校評価における評価指標には届かず、昨年に近い結果となった。 ・自己肯定感を高める取組についての達成状況は、評価指標にあげた割合に近い結果となった。学級や授業の中で、小学校より学んでいる「人間関係プログラム」のスキルの振り返りや相談しやすい環境づくりに安定的に取り組むことができた。	B	・生徒一人ひとりへの寄り添った支援や教育相談体制の充実については、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握し、家庭や関係機関との強い連携が必要である。校内の教育相談体制の見直しを行うとともに、毎月のアンケートや三者面談、教育相談週間の充実を図り、家庭との連携を強いものとしていく。 ・全国学力・学習状況調査の質問紙調査で友人関係・協力・優しさ等良好な結果が出ている。更に学級に温かな雰囲気や醸成し、生徒の自己肯定感を高めていきたい。 ・不安や悩みを相談しやすい環境づくりに関しては、不安を抱えやすい入学や進級、長期休み等の時期を重点に相談体制を充実させる。	・校舎の外、教室、トイレも整理されていて、特に教室は煩雑なところがなく明るく居心地のよい場所であると感じた。 ・生徒の授業風景も、先生に集中しているし、コミュニケーションの良さも感じました。このような環境なら、いじめは少ないだろうと感じました。 ・「感謝と恩返し」を小学校へ行う、花笑みの日は、素晴らしい取り組みです。
3	〈現状〉 ○昨年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、地域の中の中学生に期待すること等について熟議を重ねた。生徒に育てたい力等について共有した。 〈課題〉 ○今年度は、目指す生徒像を、家庭、地域などに広め、さらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な取組を実施する。	・目指す生徒像を地域全体で共有するためのICT活用 ・教育活動の公開	①本校HP内に、新たに学校運営協議会及びの情報を発信するページを作成し、目指す生徒の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ②学校行事等について、学校に関わる人々がオンライン等でも参観できるようにし、学校の教育活動や生徒の成長に対する関心を高める。	①学校評価保護者アンケート「コミュニティ・スクールに係る項目」肯定的な回答60% ②学校運営協議会委員のアンケートで、地域の方が「学校や中学生に対する関心が高まった。」肯定的回答80%	・「目指す生徒像を地域全体で共有するためのICT活用について」は、学校ホームページをリニューアルしながら取り組めた。アンケートも目標値より上回る結果となった。 ・教育活動の公開は、授業参観、学校行事、健康教育等において工夫しながら積極的に公開を行うことができた。	B	・学校運営協議会については、城南中学校区魅力化プランを推進し、地域人材を発掘しながら、できる所から展開させていく。 ・教育活動の公開は、感染対策をとりながら積極的に進めてきた。今後も開かれた学校づくりを推進する。	・学校からのお知らせをホームページで見れるようになり、学校からの情報がわかりやすくなった。 ・体育祭や合唱祭、授業公開等で学校の教育活動が見れる機会があり、大変良かった。
4	〈現状〉 ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、担当教諭等が献身的に教職員の指導力向上に向け研修に取り組んだ。組織の一員として協働する意識が高まってきている。 〈課題〉 ○ICTの活用については、教科の特性もあるが、教員も学び続けることができる職場環境づくりと、「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業改革に組織で取り組むことが求められる。	・一人ひとりが、力を発揮し、誰もが居心地のよい学校をつくる	①「よい授業」の参観シートを活用した教員相互の授業公開を通して、教師が学ぶ環境を創出していく。 ②「児童生徒の活動」を中心とした研修会を実施する。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、ICTの活用も、日常的な状況になったか。 ②「児童生徒の活動」を中心とした研修会を毎学期実施でき、「学習者が主体的に学ぶ」授業改革に取り組むことができたか。	・一人ひとりが、力を発揮し、誰もが居心地のよい学校をつくることについては、教員がICTを積極的に活用できる研修の場と職場環境整備に組織として取り組んだ。本校研究課題とタイアップし、教員の授業参観週間や先進的なICTを活用した授業を実施する場合は、指導案や資料を提供するなどし、教科や学年を超え協働することができた。	A	・次年度は、「個別最適な学び」の研究発表の年度となり、これまでの成果や課題等を明確にしながら本校の取り組みをまとめていく。研究を通して、教職員の資質能力の向上と教職員組織の活性化を図り、自信に満ちた授業を展開させていく。	・音楽のアプリを活用して作曲を行う授業など、今の子どもたちがICT機器を使った授業に取り組めるのは、先生方が日頃より研鑽を行っている賜であると感じられる。 ・生徒が主体的に発表する姿から、生徒と先生方が日頃よりコミュニケーションをとれているのがわかる。

